

思い出話（戦後編）

国吉秀雄

会誌No. 436号の続篇です。昭和二十一年秋、先輩から「テレビの仕事をする気はないか、あったら横浜工場へ来なさい」という有難いお誘いがありました：人生は浪花節ですね・・・親達には「好きな事なら仕方ないけど、この食うや食わずのご時世にご苦労な事で、まあ身体には気をつけて早く辞めて帰っておいで」などと言われたりしました。

一、新入社員の初仕事

年明け早々横浜工場を訪ねました。寄宿先の埼玉県蕨から新子安までは相当あります。さあ通勤出来るでしょうか？

総務部へ履歴書を提出し、案内された所は入江にある灰色のビル二階でした。突然、新譜「港が見える丘」が響きます。音響技術と同居のようです。

テレビ研究部には、黒岩先生はじめ鐸々たる先輩方が居られます。これは大いにお手伝いの遣り甲斐があると言うものです：ところで作業台らしきものはありますが椅子が

ありません：エー椅子無いの？こうなったら後へは引けません。横浜工場内を探して歩きますが、どこの職場にも余裕などありません。工場は戦禍のため見るも無残な有様で、レコード製造部門は壊滅状態でした。

一部の建屋で電蓄、ラジオのキャビネットが生産されていましたので、意を決し「新入社員ですが椅子を作らせて下さい」と頼み込み、端材を貰って腰掛けらしきものを作りました。これはきつと先輩が仕組んだ新入社員の導入訓練だったのです。お蔭で会社の現状や各職場の様子などよく分かりました。身体で覚えた事は身に付くものです。次第に職場にも慣れて来ましたが通勤難には参りました。上りの東北線は特に過酷で、時には連結器に乗って荒川の鉄橋を渡ったことがあります。スリル満点で中々爽快なものですよ。但し命懸けです：連結器と言えば、入江の操車場で駅員の目を盗んで貨車の連結器渡りをした事が思い出されます。遅刻しそうなきの近道なのでした。

二、テレビ巡業時代

さて、当研究部には先輩方の努力で戦災から免れたテレ

び送受像装置一式がありました。これについては、小山さんが会誌No. 321号に詳しく書かれています。やがて戦後復興の一環として各地で博覧会が開催されます。先ず地元の横浜貿易博覧会にこの装置が出展されました。研究部も営業する時代です。会場では新譜「月よりの使者」が用いられていた年でした。一方、職場では投写型テレビの試作が進んでおり、頑張つて出展しようと言う事になりました。ブラウン管を作る真空装置は、日本コロムビアのテレビ研究部から借用する事が出来ました。当時は中々得難いもので敵将から塩を贈られたようなものです。ところでこの装置は、天童へ行かれた佐口師匠（前篇記述）の遺品だったのです！将に奇跡です。必要な電気部品は何度か戸塚工場へ調達に行きました。（当時の戸塚工場が懐かしく思い出されます）やがて完成した本邦初公開の投写型テレビは、博覧会後半から展示されて中々好評でした。因みに、これに使用された対角1mの高性能スクリーンは、宍道さんの設計によるものです。後年の半年間、鳥取米子博覧会（金沢大丸百貨店）高松四国新聞社、各主催展への巡業に参加しました。テレビスタジオ設備および受像装置一式を

含む国鉄貨車で一台分の移動で、ビクターテレビの啓蒙にはかなりの成果があったものと思つています。渡辺叔夫リーダー、そして同志の駒井さん、葛籠貫さん、お疲れ様でした。特にリーダーの苦労は大変なもので、心臓部である撮像管の入った箱を現地まで大事に抱えていて絶対人には触らせませんでした。頭が下がります。

三、社員誤認逮捕

日本橋三越本店で「伸びゆく電波展」が開催されました。NHKの試験電波を各社競演で受像するという戦後初のイベントです。当社のデモ機も好成績で頑張ります。ところが会期半ばに、あるうことか不調になってしまったのです。会社へ持ち帰つて直す余裕が無く徹夜作業という事になりました。：修理が済んで明け方洗面に行ったところ、そこで、突然警備員に逮捕されてしまったのです。そして、いくら言訳しても釈放してくれないのです。もつとも、汚いシャツに作業スボン、その上人相が悪い事は認めますがこれは何かの間違いです。私はホームレスではありません！やがて心配して捜しに来てくれた渡辺先輩に救出され

ました。話によると当時、夜間店内に隠れているデパート
荒しが頻発していたのだそうで：とんだ災難でした。社員
失格です。だいいちこんな事じゃ女性に持てる訳ありません
よね。翌日、その警備員さんから果物の差し入れなどが
ありまして気を使わせてしまいました。真面目な三越の警
備員さん、あの時は迷惑をかけて本当にご免なさい。大い
に反省します。昭和二十八年二月、テレビ放送が開始さ
れました。そして今年で丁度五十年になります。とんだ長
話しをしてしまいました。駄文にお付き合い頂き有難うご
ざいました。会員諸氏の御健康を祈念してお別れとします。
追悼…故渡辺叔夫元専務のご冥福を心よりお祈り申し上
げます。

寿会ニュース No.440号 平成十五年（2003）三月